

亀毛兎角

とかく〇〇だ。三歩進んで二歩下がる。万歩計では五歩 若存耳

いずれも兎角と漢字をあてることができません。

この度ご紹介の「亀毛兎角」は仏教用語というものではないですが、比喩表現として度々経典にでてきます。

「亀毛」とは、亀が水草をからめながら泳ぐ姿のことを指します。「兎角」とは、ウサギの耳が角のように見えることを指します。

いずれも、本来実在しないものが、そう見えたという錯覚から生まれた言葉なのです。

こうして、元々は「有り得ない」という意味の「兎角」が、「とかく」という副詞の当て字として使われるようになりまし。元々の有り得ないという意味はありません。広辞苑を引くと

①かれこれ、なにやかや、いろいろ ②ともすれば やもすれば ③何にせよ さておき

とあります。②の意味で「とかく」と表記することも

あり、③の意味で「とにかく」と表記することもあります。みなさんは使い分けできて



いますか。

こんなところに 仏教用語

身近な仏教用語を紹介しています。

鬼門

我が広島カープは、交流戦が鬼門である。交流戦を五割以上で乗り切れば何とかCS

シリーズが見えてくるのだが、果たしていかに。

今回の「鬼門」は、冒頭では、苦手なもの、よくないことが起きそうな場所という意味で使いました。

「鬼門」の起源は、古代中国の神話地理書が元です。そこに鬼神が出入りする場所として丑寅の方角、東北と記されているのです。

日本では陰陽道、神仏習合などで独自に変化をします。都を建設するに当たり、北東に社寺を置くのが通例となりました。京都では比叡山延暦寺、鎌倉では五大堂、江戸では寛永寺が有名です。

明治以降、近代化とともに鬼門は迷信であると位置づけられていきます。真宗では、もともと「忌む」ということを気にしませんでした。「門徒もの知らず」という、真宗門徒を揶揄する言葉がありますが、これは「門徒物忌み知らず」として、占いや迷信を信じてこなかった風習があります。

ところが、現在でも鬼門を気にされる方はおられます。ここのお家は変な所に玄関があるな、と感



じたらおそらく鬼門を避けた結果なのでしょう。

